

50年のあゆみ



anniversary
2025

愛川町文化協会 創立50周年記念誌

目次

会長挨拶 愛川町文化協会会長	原 啓祐	2
祝 辞 愛川町長	小野澤 豊	3
愛川町議会議長	井出 一己	4
愛川町教育委員会教育長	佐藤 照明	5
50年のあゆみ		6
カラーグラビア		
ふるさとまつり		20
研修視察・芸術鑑賞		24
友好都市長野県立科町交流事業		25
創立40周年記念式典・講演会		26
加盟団体紹介		
みなかみ短歌会		28
愛川町吟詠連盟		30
愛川町民謡協会		32
愛川華道協会		34
愛川町将棋愛好会		36
愛川町歌謡協会		38
愛川茶道協会		40
マジック愛川クラブ		42
神奈川ふだん記		44
よさこいダンスチームFunny		46
マイカイアロハ		48
愛川清流太鼓		49
愛川町文化協会規約		50
愛川町文化協会役員名簿		52

お祝いのことば



愛川町文化協会会長 原 啓 祐

創立50周年を迎え、半世紀という歳月の重みを改めて噛みしめております。地域文化の礎を築き、守り、育ててこられた歴代役員をはじめ、会員皆様方のご尽力に、深く敬意を表します。また、協会がこうして50年という年月を歩んでこられましたのも、町民の皆様、関係各位の温かいご支援とご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

本協会は昭和50年11月、文化団体相互の連携・協調を図り、町民の健全な文化教養の向上とその振興を通じて、地域文化に寄与することを目的として設立いたしました。当初は9団体、最盛期には25の団体が加盟し、地域において様々な文化活動を展開してまいりました。現在は12団体の加盟と減少してはおりますが、ふるさとまつりへの参加や、友好都市・立科町との文化交流、広報誌「文化協会だより」の発行など、会員皆様の御協力のもと、先人たちが紡いで来た活動を継続しております。

この50年の歩みの中で、私たちは幾度となく時代の大きな変化と向き合ってまいりました。近年では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という未曾有の困難に直面し、文化活動の在り方自体が問われる時期もありました。そうした状況下においても、町の文化の灯を絶やさぬよう、会員の皆様が、工夫を重ね、時代に即した新たな文化活動の形を模索し続けてくださいましたことが、令和5年の4年ぶりとなるふるさとまつり参加につながったものと確信しております。

令和6年1月には能登半島地震という痛ましい災害が発生し、多くの方々が今もなお厳しい生活を強いられています。文化は人々の心を癒し、希望を与える力を持つと信じております。被災された地域の一日も早い復興をお祈り申し上げるとともに、私たちも地域社会に貢献できる存在でありたいと、決意を新たにしております。

創立50周年記念講演会として、令和7年10月25日に10年ぶりとなる能の鑑賞会を開催いたします。古典芸能に親しむこの機会が、次世代の文化の担い手の育成や、町全体の文化振興への新たな一歩となることを願っております。

これからも、町民に開かれた文化協会として、皆様とともに手を携えながら、後進の発掘・育成にも力を注ぎ、文化の灯を次世代へとしっかり繋いでまいりたいと存じます。

結びに、記念誌発刊にあたり、愛川町長、愛川町議会議長、愛川町教育長の皆様に祝辞を寄せていただきましたこと深く感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

お祝いのことば



愛川町長 小野澤 豊

愛川町文化協会が創立50周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、文化・芸術をこよなく愛する人々の大きな期待の下、昭和50年11月に創立されて以来、数々の展示会や発表会の開催をはじめ、ふるさとまつりへの参加や友好都市・長野県立科町文化展への出展など、多くの会員の皆さんが様々な形で文化活動に関わってこられました。半世紀にわたって地域の文化を育み、さらに次の世代に継承するために尽力されてこられた歴代役員をはじめ、関係者各位に深く敬意を表します。

また、コロナ禍という大変困難な時期に際しては、皆さんの情熱と努力により乗り越え、感染症対策を施した上で文化・芸術活動の継続に御尽力をいただきましたことに、衷心より感謝申し上げます。

町では、幅広い世代が主体となる文化・芸術活動を促進し、特色ある地域文化の創造に努めております。貴協会がその中心的な存在として、会員皆さんの多岐にわたる活動を支え、多くの才能を開花させてこられましたことに、誇りを感じております。

現在、人口減少や高齢化、価値観の多様化など、地域社会を取り巻く環境は大きく変化しております。こうした時代だからこそ、娯楽や趣味にとどまらず、地域の連帯感や共感性を深めることができる文化・芸術活動は、町の未来を切り拓く大きな力になるはずです。貴協会の50年の歩みを礎に、さらに豊かな文化の花が咲き誇ることを期待しております。

町としても引き続き、貴協会と連携を深めながら、共に成長していけるよう努力してまいりますので、関係各位には、相変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますの御発展と会員皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

文化協会創立50周年を祝して



愛川町議会議長 井 出 一 己

愛川町文化協会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。そして、ここに記念誌を発行されますこと誠におめでとうございます。

昭和50年11月の創立以来、半世紀という長きにわたり町の文化芸術の中心として数々の活動を続けられ、様々な分野にわたる地域文化の振興に大きな役割を果たされたこと、改めて感謝を申し上げます。

さて、貴協会は、地域文化の継承と発展にご尽力され、文化芸術の発信拠点である町文化会館や半原・中津公民館を中心に、これまで茶道や華道をはじめ、俳句や音楽、将棋などの多岐にわたるジャンルにおいて、関係団体・グループや地域の皆様と連携しながら、多彩な町民文化の創造に寄与されてこられました。また、毎年ふるさとまつりには、文化作品展示会の開催とともに、芸能発表会を実施されていることは、町民に感動や生きる喜びをもたらし、心豊かな生活に潤いを与えてくれているものと存じております。

このように長きにわたり文化の振興と発展に向けられた活動は、皆様の熱い思いであると存じておりますし、これからも末長く地域に根ざした文化芸術活動のリーダーとして取り組みを推し進めていただくことを願うものであります。

私どもが、こうして恵まれた暮らしができるのも、文化向上に貢献してくださった先人のおかげであり、それに脈々と続いてきた遺産の賜物と感謝しなければなりません。50年という節目は、これまでの歩みを振り返るとともに、次の50年に向けた新たな出発点でもあります。文化の灯を次世代へと繋げていく営みは、時代が移ろう中であっても、決して色あせることはありません。

今後も地域文化の中核として、更なる飛躍を遂げられることを心より願っておりますし、これまでのように愛川の魅力を内外に発信されていくことを大いに期待しております。

結びに、愛川町文化協会のますますのご発展と会員皆様のご活躍を心から祈念申し上げます、町議会を代表してお祝いのことばといたします。

お祝いのことば



愛川町教育委員会教育長 佐藤 照明

愛川町文化協会が創立50周年という記念すべき節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

昭和50年11月の設立以来、貴協会に携わってきた皆様が積み重ねてこられた長年の御尽力は、町の教育や文化の礎となり、町民の心の中にも豊かに息づいていることと思います。

さて、町教育委員会では、心豊かな社会を育んでいくために、文化や芸術活動の振興と推進に重点を置いており、そうした中で、貴協会の会員皆様の多彩な取り組みは、学校教育や地域とのつながりにも温かな広がりをもたらしており、大変心強く感じております。

文化は、地域の歴史と風土の中で生まれ、人と人との絆を深める力を持っており、花を生けたり、短歌を詠んだり、音楽に触れたり、踊ったりすることなど、さまざまな分野における活動が世代を超えて受け継がれていることは、郷土に対する誇りや愛着を育むことにつながり、人々が感性や考えを深めるよいきっかけとなるとともに、将来の自分自身を形成していく上で、好影響をもらしてくれています。

教育現場においても、文化芸術は子どもたちの感性や想像力を育むうえで欠かせないものであり、貴協会における地域イベントでの演奏・展示・発表の機会は、子どもたちにとって貴重な体験となり、こうした文化活動が教育と結びつき、次代を担う若者たちが地域の文化に誇りと愛着を持てるよう、さらなる連携を期待しております。

貴協会の皆様が、そうした出会いや学びの場を、50年の長きに渡り、支えてくださっていることに、心より感謝を申し上げますとともに、目まぐるしく変化を続ける昨今の社会情勢の中で、これからも文化活動における多彩な取組みを絶やされることなく、引き続き、本町の地域文化のさらなる発展と継承にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、創立50周年を迎えられた貴協会にお祝い申し上げますとともに、役員の皆様をはじめ、会員皆様、これまで文化協会に携わってこられた方々の御活躍と御健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

50年のあゆみ

〔はじめに〕

愛川町文化協会は1975（昭和50）年11月に結成し、加盟団体の入れ替わりがありながらも、価値観の多様化した今日まで存続し、50周年を迎えることができました。「50年のあゆみ」では、結成前夜まで遡り、歴代の会員が築き上げた協会の軌跡をたどります。

〔結成前夜〕

愛川町で文化団体による文化祭あるいは文化展といわれるものが開催されたのは、戦後の青年団活動等を別にすると、1971（昭和46）年頃からであったようです。資料によると、町教育委員会の呼びかけに、当時既に活動を展開していた愛川町盆栽会、みなかみ短歌会、スリーエークラブ（絵画）、愛川山岳会、愛川町写真クラブ、愛川ハムクラブ（アマチュア無線）の6団体が応じ、このほか、教育委員会が運営にかかわる青年教室が手芸作品を展示するかたちで、半原の愛川農協2階を会場に3月20日から3日間実施されたというものです。

この文化祭・文化展は、以降毎年秋に開催されようになります。水石同好会や劇団新星など参加団体も次第に増え、書道や彫刻作品が展示されるようになり、1973（昭和48）年には、こだま俳句会が参加するなど、作品の範囲も広がります。開催会場も中津農協、高峰公民館、中津第二小学校体育館など地域を回り、展示内容も徐々に充実していきます。

町は、文化団体に補助金を交付し、自主的な活動育成への支援を行います。

文化団体相互の理解と交流が深まっていくなか、教育委員会からの呼びかけに応じるといって、受身なかたちではなく、お互いの力を結集して自主的に文化祭を開催するべきであるとの意識が生まれ、そのために、一つの組織を結成する必要性が、団体間で議論されるようになります。

こうした動きに前後し、神奈川県文化団体連盟から、統一文化団体の組織化を要請されたこともあり、いよいよ文化協会結成への気運が高まっています。

〔結 成〕

さて、機運の熟したのをみた教育委員会は、1975（昭和50）年2月に文化団体連絡会議を招集し、文化協会設立についての協議の場を提供します。集まった各団体の代表者の協議では、結成について異論は無く、議論は、活動目的や運営方法、規約草案の検討と、結成に向けて一挙に進んでいきます。

骨子としては、個人の組織化ではなく団体の加盟であること、加盟団体は全町的な組織であること、また、政治的にも宗教的にも不偏不党であること、常に向上への意図を持ち、かつ相応の実績を持続していること等があげられ、運営については、統合団体としての性格から総会は代議制をとること、加盟団体から1名ずつ選出された理事によって運営がなされることなどが確認されます。

その後も繰り返し協議の場が持たれ、同年11月12日、町役場分室内会議室において設立総会が開催されます。設立時の加盟9団体と役員組織は以下の通りです。

会 長	大 貫 嘉 一	スリーエークラブ
副会長	八 木 正 吾	愛川町盆栽会
〃	押 田 甲子蔵	愛川町吟詠連盟
会 計	小 島 宗 二	みなかみ短歌会
書 記	木 藤 照 雄	スイングハード
理 事	河 内 正 光	愛川町浄曲愛好会
〃	斉 藤 一 喜	みなかみ短歌会
〃	林 峰 雄	愛川町写真クラブ
〃	谷 本 幸 男	スリーエークラブ
〃	小 倉 良 久	愛川水石奇木会
〃	山 田 英 雄	愛川町吟詠連盟
〃	萩 原 福 松	こだま俳句会
〃	小 島 末 儀	愛川町盆栽会
〃	青 木 征 一	スイングハード
監 事	山 崎 翁	愛川町浄曲愛好会
〃	井 上 照二美	こだま俳句会
会 計	近 藤 勇 司	愛川町教育委員会
書 記	鴨 下 俊 道	〃

〔年 表〕

◎は新規加盟した団体、●は退会した団体

1975～1985	
1975 (昭和50) 年度	
11/12	愛川町文化協会の設立総会<<町役場分室>>
//	9団体でスタート。大貫嘉一会長 初年度は大きな活動は控え、役員会を複数回開催し、次年度からの活動の研究準備にあてる。
1976 (昭和51) 年度	
6/12	定期総会<<町役場分室>>
11/27～28	文化祭・郷土出身芸術家作品展開催<<町立体育館>> (後に日本芸術院賞を受賞する中村博直氏の作品を展示。)
//	
11/28	文化講演会開催(講師:中村博直氏)<<町立体育館>> 文化振興指導者名簿を編成する。
1977 (昭和52) 年度	
◎愛川町囲碁連盟が新規加盟(計10団体)	
5/8	定期総会<<町保健センター>>
//	文化講演会開催(講師:岡本雅堂氏)<<町保健センター>>
11/5～6	町産業文化祭参加。作品展示、素人演芸会。
//	郷土出身芸術家作品展開催(大貫松三氏の作品を展示。)
11/6	文化講演会開催(講師:大貫松三氏)
1978 (昭和53) 年度	
◎文化グループ新星、愛川町民謡協会が新規加盟(計12団体)	
5/20	定期総会<<町役場>>
//	文化講演会開催(講師:大塚博夫氏)<<町役場>>
11/11	芸能発表会開催<<高峰小>>
11/11～12	文化展・熊坂東以作品展開催<<町立体育館>>
11/12	文化講演会開催(講師:熊坂東以氏)<<町立体育館>>
11/19	演劇発表会開催<<繊維会館>>
1/20～21	研修視察<<箱根・伊東方面 ～熱海救世美術館、三保ダムほか～>>
1979 (昭和54) 年度	
◎愛川さつき会が新規加盟(計13団体)	
6/2	定期総会<<町役場>>
//	文化講演会開催(講師:大悟法進氏)<<町役場>>
11/17	演劇芸能発表会開催<<田代小>>
11/17～18	文化展・成井弘氏作品展開催<<町立体育館>>
11/18	文化講演会開催(講師:成井弘氏)<<町立体育館>>
1/19～20	研修視察<<山梨方面 ～山梨県立美術館、たちばな山梨古美術館ほか～>>
1980 (昭和55) 年度	
5/28	定期総会<<町役場分室>>
//	文化講演会開催(講師:大塚博夫氏、小島秀也氏)<<町役場分室>>
10/25	演劇・芸能発表会開催<<繊維会館>>
10/25～26	文化展開催<<町立体育館>>
10/26	安達原玄氏仏画展開催<<老人福祉センター>>
//	文化講演会開催(講師:安達原玄氏)<<老人福祉センター>>
1/31～2/1	研修視察<<静岡方面 ～焼津魚市場、登呂遺跡ほか～>>

1981 (昭和56) 年度

◎愛川山草会が新規加盟 (計14団体)

6/6	定期総会<<町役場>>
//	文化講演会開催 (講師:福井周道氏) <<町役場>>
10/31	芸能発表会開催<<老人福祉センター>>
10/31~11/1	文化展開催<<町立体育館>>
11/1	文化講演会開催 (講師:大貫嘉一氏) <<町立体育館>>
1/20~21	研修視察<<伊豆稲取方面 ~長八記念館、大瀬崎ほか~>>

1982 (昭和57) 年度

◎愛川華道協会、愛川川柳会が新規加盟 ●スイングハードが退会 (計15団体)

6/12	定期総会<<町役場>>
//	文化講演会開催 (講師:中村純氏) <<町役場>>
10/23~24	文化展開催<<町立体育館>>
10/24	文化講演会開催 (講師:大貫嘉一氏、小島宗二氏) <<町立体育館>>
1/6~3/27	町文化会館記念事業「文化展」協力<<新設された町文化会館>>
1/9、23	町文化会館記念事業「町民文化芸能のつどい」参加<<町文化会館>>
3/4~5	研修視察<<房総方面 ~成田山・九十九里ほか~>>

1983 (昭和58) 年度

◎愛川町合唱連盟、愛川三曲協会、愛川町舞踊協会、愛川将棋クラブが新規加盟 (計19団体)

5/28	定期総会<<町文化会館>>
//	新規加盟団体芸能発表会<<町文化会館ホール>>
10/15~16	秋季文化祭 (作品展示、芸能発表会、囲碁と将棋のつどい)
//	<<町文化会館>>
2/21~22	研修視察<<伊香保方面 ~だるま寺、竹久夢二記念館ほか~>>

1984 (昭和59) 年度

◎愛琴会が新規加盟 (計20団体)

6/13	定期総会<<町文会館>>
//	文化講演会開催 (講師:大矢富雄氏) <<町文化会館>>
9/21~23	ふるさとまつり参加 芸能発表会<<町文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、囲碁・将棋大会等
2/20~21	研修視察<<御前崎方面 ~ねむのき学園、浜岡原子力発電所ほか~>>

1985 (昭和60) 年度

◎愛川町書道同好会が新規加盟 (計21団体)

6/23	定期総会<<町文化会館大会議室>>
//	創立10周年記念式典開催<<町文化会館>>
//	(芸能・展示発表会、記念誌『十年のあゆみ』発行)
9/27~29	ふるさとまつり参加 芸能発表会<<町文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、囲碁・将棋大会等
2/19~20	研修視察<<伊豆方面 ~下田、波勝崎洋ランセンターほか~>>

1986～1995**1986 (昭和61) 年度**

6/25	定期総会≪町文化会館大会議室≫
10/3～5 //	ふるさとまつり参加 芸能発表会≪町文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、囲碁・将棋大会等
2/19～20	研修視察≪房総方面 ～小湊、白浜ほか≫

1987 (昭和62) 年度**◎愛川町歌謡協会が新規加盟 (計22団体)**

6/18	定期総会≪町文化会館大会議室≫
9/25～27 //	ふるさとまつり参加 芸能発表会≪町文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、囲碁・将棋大会等
2/17～18	研修視察≪房総方面 ～国立歴史民俗博物館ほか≫

1988 (昭和63) 年度**◎愛川茶道協会が新規加盟 (計23団体)**

6/17 //	定期総会≪町文化会館大会議室≫ ★総会アトラクション:愛琴会、吟詠連盟、合唱連盟、歌謡協会
10/7～9	ふるさとまつり (中止)
10/22 //	県央フォーラム≪高相合同庁舎≫ (大貫善正氏事例発表「地域における伝統芸能の保存、伝承」)
2/22～23	研修視察≪水戸、大洗方面 ～偕楽園・予科練記念館ほか≫

1989 (平成元) 年度

6/23 //	定期総会≪町文化会館大会議室≫ ★総会アトラクション:吟詠連盟、歌謡協会、民謡協会
11/3～5 //	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/22～23	研修視察≪箱根、西伊豆方面 ～成川美術館、箱根神社ほか≫

1990 (平成2) 年度

6/21	定期総会≪町文化会館大会議室≫★総会アトラクション:歌謡協会
11/2～4 //	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/21～22 //	研修視察 ≪信州、安曇野方面 ～禄山美術館、浮世絵博物館、奈良井宿ほか≫

1991（平成3）年度

◎マジック愛川クラブが新規加盟（計24団体）

6/11	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:マジッククラブ
11/2~4	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/21~22	研修視察≪静岡、焼津方面 ~梅陰寺、鉄舟寺、久能山ほか≫

1992（平成4）年度

6/18	定期総会≪町文化会館大会議室≫★総会アトラクション:歌謡協会
10/31~11/1	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/23~24	研修視察≪伊豆方面 ~宝福寺、了仙寺、佐野美術館、楽寿園ほか~≫

1993（平成5）年度

7/2	定期総会≪町文化会館大会議室≫
10/30~31	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/23~24	研修視察
//	≪山梨県富士、下部方面 ~富士美術館、ふるさと芸術館、久遠寺ほか~≫

1994（平成6）年度

7/1	定期総会≪町文化会館大会議室≫
10/29~30	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/21~22	研修視察
//	≪伊香保方面 ~耳飾り館、夢二記念館、歴史博物館、高崎観音ほか~≫

1995（平成7）年度

6/8	定期総会≪町文化会館大会議室≫
6/22~29	20周年記念文化作品展開催≪町文化会館展示室等≫
6/25	20周年記念式典、文化振興発表会開催≪町文化会館ホール、ホワイエ、ロビー等≫
//	記念誌『20年のあゆみ』発行
11/4~5	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/26~27	研修視察≪三浦・鎌倉方面 ~海洋科学技術センター、白秋記念館、
//	鎌倉シネマワールド~≫
	◆大貫会長退任（10期20年5ヵ月）

1996～2005**1996（平成8）年度**

6/7	定期総会 林峰雄氏（愛川町写真クラブ）が新会長に就任
//	≪町文化会館大会議室≫
11/2～3	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/20～21	研修視察≪箱根・伊東方面 ～温泉地学研究所、
//	伊豆ガラス工芸美術館、池田20世紀美術館、曾我梅林～≫

1997（平成9）年度

6/4	定期総会≪町文化会館大会議室≫
11/1～2	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/25～26	研修視察≪熱海・湯河原方面 ～県立生命の星・地球博物館、
//	MOA美術館ほか～≫

1998（平成10）年度**◎愛川ばら会が新規加盟（計25団体）**

6/4	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:マジッククラブ、歌謡協会
10/3～4	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/14～15	研修視察≪大島・湯河原方面 ～大島自然公園、芸能村、天城ほか～≫

1999（平成11）年度

6/3	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:三曲協会、歌謡協会、舞踊協会
10/30～31	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/13～14	研修視察≪小田原・修善寺方面 ～小田原うめ工場、宇佐美観音ほか～≫

2000（平成12）年度**●愛川町合唱連盟が退会（計24団体）**

6/21	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:マジッククラブ、歌謡協会、☆展示:さつき会
10/28～29	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/25～26	研修視察
//	≪清水・焼津方面 ～東海大学社会教育センター、三保の松原ほか～≫

2001（平成13）年度

5/28	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:吟詠連盟、民謡協会 ☆展示:さつき会、ばら会
10/27～28	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
11/1～2	研修視察≪掛川・袋井方面 ～島田市博物館、川越資料館ほか～≫
3/31	広報誌「文化協会だより」発行

2002 (平成14) 年度

●愛川三曲協会が退会 (計23団体)

5/29	定期総会≪町文化会館大会議室≫☆総会展示:さつき会
10/1~2	研修視察≪甲府・石和方面 ~山梨県立美術館、恵林寺信玄館ほか≫
10/26~27	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
3/31	広報誌「文化協会だより」発行

2003 (平成15) 年度

◎神奈川ふだん記、愛川町押花協会が新規加盟 (計25団体)

5/22	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:舞踊協会、歌謡協会
//	☆展示:水石奇木会、さつき会、ふだん記、押花協会
10/20~21	研修視察≪御殿場・箱根方面 ~箱根、桃源台ほか≫
11/1~2	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
3/7	第30回立科町芸能グループ発表会視察≪友好都市長野県立科町≫
3/31	広報誌「文化協会だより」発行

2004 (平成16) 年度

5/17	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:民謡協会、マジッククラブ
//	☆展示:水石奇木会、さつき会、ふだん記、押花協会
10/23~24	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/3~4	研修視察≪友好都市長野県立科町≫立科町文化展への出品

2005 (平成17) 年度

●愛川川柳会が退会 (計24団体)

5/19	定期総会≪町文化会館大会議室≫★総会アトラクション:歌謡協会
//	☆展示:華道協会、山草会
10/26~30	ふるさとまつり参加 文化展延長実施≪町文化会館大会議室等≫
10/29	30周年記念講演会「発明のころは愛」を開催
//	講師:中松義郎博士(ドクター中松氏)≪町文化会館ホール≫
//	記念誌『30年のあゆみ』発行
10/30	文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
//	
11/3~6	友好都市立科町文化展出品(スリーエークラブ)
11/16~17	研修視察≪銚子方面 ~犬吠崎、国立歴史民俗博物館ほか≫

2006～2015**2006 (平成18) 年度**

5/24	定期総会<<町文化会館大会議室>>★総会アトラクション:マジッククラブ
//	☆展示:写真クラブ、山草会、ばら会
10/28~29	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<<文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等

2007 (平成19) 年度**●愛川町浄曲愛好会が退会 (計23団体)**

5/23	定期総会<<町文化会館大会議室>>☆総会展示:水石奇木会、ばら会
10/27~28	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<<文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/1~5	友好都市立科町文化展出品 (書道同好会)
11/8~9	研修視察<<長野県戸倉上山田方面 ~善光寺、北向観音ほか~>> ◆林会長が退任 (6期12年)

2008 (平成20) 年度

5/28	定期総会 遠藤理敏氏 (愛川華道協会) が新会長就任
//	<<町文化会館大会議室>> ☆総会展示:ばら会、さつき会
10/25~26	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<<文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/7~9	友好都市立科町文化展出品 (神奈川ふだん記)

2009 (平成21) 年度**●愛川山草会が退会 (計22団体)**

5/28	定期総会<<町文化会館大会議室>>
//	★総会アトラクション:マジッククラブ ☆展示:ばら会、さつき会
10/31~11/1	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<<文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/6~8	友好都市立科町文化展出品 (みなかみ短歌会、俳句協会)
11/27~28	研修視察<<群馬県榛名湖方面 ~水沢観音、竹久夢二記念館ほか~>>

2010 (平成22) 年度**●愛川盆栽会が退会 (計21団体)**

5/26	定期総会<<町文化会館大会議室>>☆総会展示:ばら会、さつき会
10/23~24	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<<文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/5~11/7	友好都市立科町文化展出品 (水石奇木会)

2011 (平成23) 年度

5/25	定期総会<<町文化会館大会議室>>
//	★総会アトラクション:マジッククラブ ☆展示:ばら会、さつき会
10/22~23	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<<文化会館ホール>>、
//	文化展<<同大会議室等>>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/4~6	友好都市立科町文化展出品 (スリーエークラブ)
11/24	研修視察<<三島、沼津方面 ~三島市郷土資料館 (楽寿園)、沼津御用邸記念公園ほか~>> ◆遠藤会長が退任 (2期4年)

2012 (平成24) 年度

●愛川町俳句協会が退会 (計20団体)

5/24	定期総会 高橋篤則氏 (愛川町写真クラブ) が新会長就任
//	≪町文化会館大会議室≫ ☆総会展示:ばら会、水石奇木会
10/27~28	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/2~11/4	友好都市立科町文化展出品 (押花協会)

2013 (平成25) 年度

5/22	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:愛琴会 ☆展示:押花協会
10/26~27	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/1~3	友好都市立科町文化展出品 (写真クラブ)
11/22	研修視察
//	≪富士河口湖方面 ~久保田一竹美術館、西湖いやしの里根場ほか~≫
3/15	広報誌「文化協会だより」10年ぶりの発行

2014 (平成26) 年度

◎よさこいダンスチームFunnyが新規加盟 ●愛川演劇協会が退会 (計20団体)

5/21	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:マジッククラブ ☆展示:さつき会、ばら会
10/25~26	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/7~9	立科町文化展出品 (書道同好会)
3/1	広報誌「文化協会だより」発行

2015 (平成27) 年度

5/20	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション:吟詠連盟、民謡協会
//	☆展示:さつき会、ばら会
10/1	記念誌『40年のあゆみ』発行
10/24	愛川町文化協会創立40周年記念式典・講演会「能の鑑賞~羽衣~」を開催
//	講師:観世流能楽師 加藤眞悟氏≪文化会館ホール≫
10/24~25	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、将棋大会、写真コーナー等
11/6~8	友好都市立科町文化展出品 (神奈川ふだん記)
11/20	研修視察
//	≪浅草方面 ~東京都江戸東京博物館、東京スカイツリーほか~≫
3/31	広報誌「文化協会だより」発行
	◆高橋会長が退任 (2期4年)

2016～2025**2016（平成28）年度****●スリーエークラブが退会（計19団体）**

5/18	定期総会 成瀬和治氏（マジック愛川クラブ）が新会長就任
//	≪町文化会館大会議室≫ ☆総会展示：押花協会
10/22～23	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/4～6	友好都市立科町文化展出品（みなかみ短歌会）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2017（平成29）年度

5/17	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション：舞踊協会 ☆展示：華道協会
7/17	芸術鑑賞事業
//	≪横浜能楽堂 ～「よこはま能」(梅若研能会主催)の鑑賞～≫
10/21～22	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/3～5	友好都市立科町文化展出品（水石奇木会）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2018（平成30）年度**●愛琴会、愛川町書道同好会が退会（計17団体）**

5/23	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	☆総会展示：愛川ばら会
10/20～21	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/2～4	友好都市立科町文化展出品（押花協会）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2019（令和元）年度

5/24	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション：マジッククラブ ☆展示：水石奇木会
10/19～20	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/2～4	友好都市立科町文化展出品（写真クラブ）
11/14	研修視察
//	≪川越方面 ～川越氷川神社、喜多院 五百羅漢ほか～≫
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2020（令和2）年度

●愛川町押花協会が退会（計16団体）

5/22	定期総会≪書面総会≫※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により緊急事態宣言が発令されたため
10/17~18	ふるさとまつり（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
11/7~8	友好都市立科町文化展出品（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2021（令和3）年度

5/19	定期総会≪書面総会≫※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
10/23~24	ふるさとまつり（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
11/6~7	友好都市立科町文化展出品（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行 ◆成瀬会長が退任（3期6年）

2022（令和4）年度

●愛川水石奇木会が退会（計15団体）

5/12	定期総会≪書面総会≫※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 原 啓祐氏（愛川町民謡協会）が新会長就任
10/22~23	ふるさとまつり（文化芸能発表会、文化展、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会は中止）
11/4~6	友好都市立科町文化展出品（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
11/13~14	ねんりんピックかながわ2022 将棋交流大会 審判補助（将棋愛好会）演技披露（よさこいダンスチームFunny）
11/29	研修視察≪鎌倉方面 ～鎌倉大仏、長谷寺ほか～≫
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2023（令和5）年度

●愛川町囲碁連盟、愛川町舞踊協会が退会（計13団体）

5/17	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション：マジッククラブ ☆展示：さつき会
10/21~22	ふるさとまつり4年ぶりに参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、将棋大会
11/3~5	友好都市立科町文化展4年ぶりに出品（神奈川ふだん記）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2024（令和6）年度

●愛川町写真クラブ、愛川ばら会が退会（計11団体）

5/22	定期総会≪町文化会館大会議室≫
//	★総会アトラクション：歌謡協会 ☆展示：華道協会
10/19~20	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、体験教室、ふるさと茶会、将棋のつどい
11/1~3	友好都市立科町文化展出品（神奈川ふだん記）
11/20	研修視察
//	≪大宮方面 ～埼玉歴史と民俗の博物館、角川武蔵野ミュージアムほか≫
3/15	広報誌「文化協会だより」発行

2025（令和7）年度

◎マイカイアロハ、愛川清流太鼓が新規加盟 ●愛川さつき会が退会（計12団体）

5/21	定期総会≪町福祉センター会議室≫
//	★総会アトラクション：吟詠連盟 ☆展示：みなかみ短歌会
10/25	愛川町文化協会創立50周年記念式典・講演会「能の鑑賞『経正』」を
//	町文化会館ホールにて開催予定
10/25~26	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
//	文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、将棋のつどいを開催予定
3/1	立科町公民館まつり参加予定（吟詠連盟）
3/15	広報誌「文化協会だより」発行予定

1983（昭和58）年に愛川町文化会館が開館、また、1989（平成元）年には半原公民館（ラビンプラザ）、1995（平成7）年に中津公民館（レディースプラザ）、2009（平成21年）に愛川町郷土資料館が開館し、私たち文化団体の活動や発表の場が広く確保されるようになります。

また、2003（平成15）年からは友好都市である長野県立科町との間で、ふるさとまつりでの「友好都市立科町文化展」の実施や立科町中央公民館等での「立科町文化展」への参加などの文化交流事業を展開し、両町の友好関係の発展に貢献しています。

また、加盟団体が行う各種の教室・講座や発表会等の開催を助成し、町民の文化活動に資するとともに、加盟団体の活動の充実と発展を支援していることも、当会の大きな役割となっています。

高度経済成長期の終了後、昭和50年11月に9団体で結成した当会は、昭和57年度には15団体、59年度には20団体となり、平成10年度には最大となる25団体が加盟するなど、昭和後期から平成の時代にかけて、愛川町において活発な文化活動を展開してまいりました。経済成長よりも、家族とのふれあい、自然や地域文化を大切にする「心の豊かさ」が重視されるようになった時代、人々の価値観の変化の受け皿となったものではないかと思えます。

しかしながら、令和の時代となり間もなく、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令等で、文化活動の場となる文化会館や公民館等が休館となり、ふるさとまつりも中止となるなど、会の活動の展望が見えなくなる中、会員の高齢化が進み、担い手不足により運営の継続ができなくなる団体もありました。

危機的状況の中で、各加盟団体は感染症対策を行いながら、練習会や展示会、発表会等を再開させ、令和5年10月には4年ぶりにふるさとまつりへ参加できるようになり、令和7年度には11年ぶりに2団体が新規加盟したところであります。

創立50周年を契機とし、先が読めない時代と言われる中で、会員一同は力の限り、町民文化の振興に取り組んでまいり所存であります。

Memories of Culture festival

第30回 ふるさとまつり・2014(平成26)年



吟詠連盟



愛琴会

第31回 ふるさとまつり・2015(平成27)年



舞踊協会



ばら会

第32回 ふるさとまつり・2016(平成28)年



写真クラブ



マジッククラブ

第33回 ふるさとまつり・2017(平成29)年



民謡協会



さつき会

第34回 ふるさとまつり・2018(平成30)年



水石奇木会



華道協会

第35回 ふるさとまつり・2019(令和元)年



将棋愛好会



よさこいダンスチームFunny

4年ぶりに参加!!

第37回 ふるさとまつり・2023(令和5)年



スペシャルゲスト・ダンサーマジシャンHitomi



歌謡協会



茶道協会

第38回 ふるさとまつり・2024(令和6)年



スペシャルゲスト・マジシャンペル



体験型ワークショップ

開催



友好都市長野県立科町 御泉水太鼓



ふるさとまつり

懐かしのスナップ写真

創立20周年記念文化振興発表会・文化展 1995 (平成7年)



吟詠連盟



マジッククラブ



舞踏協会



合唱連盟



みなかみ短歌会



さつき会

第18回 愛川町ふるさとまつり 2002 (平成14年)



浄曲愛好会



会場の様子 (かえで広場)

創立30周年記念講演会・文化展 2005 (平成17年)



受付の華道協会の皆さん



華道協会

研修視察・芸術鑑賞



平成27年度研修視察（東京スカイツリー）



平成29年芸術鑑賞（横浜能楽堂）



令和4年度研修視察（鎌倉大仏）



令和6年度研修視察（角川武蔵野ミュージアム）

友好都市長野県立科町交流事業 ～立科町文化展への出展～



平成29年水石奇木会出展の様子



平成30年度押花協会出展の様子



令和元年度写真クラブ出展の様子



令和5年度神奈川ふだん記出展の様子



令和6年度みなかみ短歌会出展の様子

創立40周年記念式典・講演会

2015年(平成27年)10月24日(土)愛川町文化会館ホールにて開催
記念式典(能舞台を作ったことから、中央から下手側に演台等を移動)



高橋篤則会長(当時)あいさつ



林峰雄元会長、遠藤理敏元会長へ感謝状贈呈

創立40周年記念式典・講演会



<p>愛川町文化協会 創立40周年記念講演会</p> <p>能の鑑賞 〜羽衣〜</p> <p>講師 観世流 加藤真悟</p> <p>能上演付講演会</p> <p>2015/10/24(土)</p> <p>午後2時開演</p> <p>会場 愛川町文化会館ホール (愛川町角田250番地1)</p> <p>無料(※入場整理券が必要) ※入場整理券は、10月1日(木)～ 文化協会文化協賛で配布に配布します。</p> <p>主催 愛川町文化協会 共催 愛川町教育委員会</p>		<p>はごろも 〜羽衣〜</p>
---	--	----------------------



能上演付の記念講演会

講師 観世流能楽師

能の鑑賞

加藤真悟先生

はごろも 〜羽衣〜

第1部 レクチャー 能は見えない世界



「高砂や」を謡ってみよう



(「高砂や」を謡う観客)



能装束の着付け



お囃子の説明と実演



第2部 能「^{はごろも}羽衣」上演



みなかみ短歌会

【結成と経過】

昭和四十二年秋、若者仲間での趣味から出発した「愛川短歌会」がこの年「みなかみ短歌会」とし、小島宗二氏を中心に興された。

かつて戦後の村祭りなどで青年団員の俳句短歌が展示され、多くの人々が集まったと聞く。

会の中心の小島氏は半原小学校高等科のみを卒業後、町役場に職を得て、戦中の多忙の中、通信教育の手段により、都内の歌人に指導を受けた。

また、町の吏員の合間に教員の資格を取得。この過程は、小学校しか出ていない小島氏にとって、勉学の楽しさを悟り教養に芽生え、近代短歌やそれに関わる評論を理解する力に役立ったと、聞く。

「みなかみ」を結成後、短歌を学びたい人らの指導に平成二十二年迄、熱心に当たられた。約、四半世紀、先生としての歴史である。

愛川町なのになぜ「みなかみ」の名かとの質問に、谷の細流が集まり下って、洋々たる大きな流れをなす姿への願いと知らされた。

また先生は若山牧水に傾倒し、著書の「みなかみ紀行」にも因む。牧水の没後、妻の喜志子氏を中心とする、「創作」の結社に所属し、八菅山に喜志子の歌碑をも建立する。

今、わずかな灯を大切に守り、先生が望

まれた郷土に文化の華を咲かせん、と思う。

〈牧水を敬愛したる先師なり故に会の名〉
「みなかみ」と呼ぶ

【活動内容】

現在、毎月第3土曜日の午後、中津公民館にて、各自三首前後の短歌を持ち寄り、十名ほどの愛好家で、互いに鑑賞し、一首ずつ全員で感想を述べ合う研修会を開いている。

また、各自、他の短歌会の会員とし活動し、また、各地での短歌大会への応募も行う。

わが会に先生、と呼べる指導者は無く、全員が先生となり、和気あいあいと濃密な時を過ごす。時には短歌の評を逸れ、思いつきや、体験談など語り合うのも楽しい。

平成二十三年、師である小島宗二氏の没後も続く伝統ある研修会。

高齢のため、外出が困難な会員は必ずはがきで作品を寄せられ、唯一の楽しみと言う。

私達の個々の営みは小さいが、温もりある手と手によって、互いを啓発し、深め合うべく活動を継続している。

【今後の抱負】

年長者は九十歳代、若手は四十歳代、貴重な存在である。

若い方に関心を寄せて貰うのは、もはや絶望的と嘆いてばかりいられない。

メディアによる啓発に期待するものである。そして会員の一人一人が、この短歌をたしなむ事に喜びと誇り、充実感を持って、小さな文化の灯を守り続けている。

短歌に関心をお持ちの方であれば、喜んで会にお迎えし、日々の楽しみ、喜び、悲しみ、寂しさなど感じる心の動きを共に、

三十一文字に表す幸福を味わいたい。

ふるさとまつり文化展に今後も出品し、皆様の目に留めて頂きたいと願っている。

【歴代会長】

小島 宗二 昭和42年～平成 9年

梅澤 多枝子 平成10年～平成23年3月

富田 茂子 平成23年4月～現在



鳥取市主催の「大伴家持大賞」入賞を祝って



会員の米寿の祝賀会 金色の頭巾とちゃんちゃんこにご満悦

愛川町吟詠連盟

【結成と経過】

詩吟の世界は古いしきたりがあり、他流派との交流は固く禁じられていた時代があったと聞きます。それを乗り越えて同じ吟や舞をする会派の親睦と交流を促進する組織が今から半世紀前の昭和48年10月に産声を上げたことは画期的なことでした。

吟詠連盟もこの50年間で大きく会員を減らしました。100余名から20余名と組織は5分の1に。時代の変遷はめまぐるしく、特にコロナ禍の4年間は、会場の閉鎖や思い切り声を張り上げることも遠慮しなければならぬ時期を乗り越えてようやく灯りが見えて来ました。そんな時代を経て次の時代に向けて話し合いをしています。

【活動内容】

吟詠連盟の活動として、年1回の総会、春には総会の後に発表会、夏には勉強会、秋には今年53回目を迎える発表会、そして新年を迎えて初吟会、交流会。町のふるさとまつりでの出演をしています。10年前の平成27年10月から中津公民館で月2回の詩吟教室を始めました。参加者は未経験、初心者、経験者、会派を問いません。

各詩吟教室では、それぞれが月2回、3回と研鑽しています。

【今後の抱負】

何といたっても、若いも若きも交え人生を楽しく豊かにする。これを一番の基本にすえる。その過程として腹式呼吸による心肺機能の強化、健康な身体を保つこと。適度なストレスとストレスの解消。人生の教訓や自然の美しさ、表現の美しさ、吟じることによってパーッと広がる美しい景色を創造しながら腹の底から声を出す。繰り返す、声に出し暗唱することにより、脳の活性化を図る。そんな楽しい人生の助けに役立てばいいかなと思っています。

【歴代会長】

押田 甲子藏	昭和48年10月～昭和59年 3月
山田 英雄	昭和59年 4月～平成 5年 3月
竹内 秀男	平成 5年 4月～平成13年 3月
小林 健	平成13年 4月～平成18年 3月
井上 幾雄	平成18年 4月～令和 4年 3月
勝又 莊蔵	令和 4年 4月～現在



ふるさとまつり文化芸能発表会の様子



文化協会定期総会アトラクションの様子



第52回詩吟発表会の様子

愛川町民謡協会

【結成と経過】

〴〵心のふるさと民謡、

民謡には追分、馬子歌、舟歌、今様、甚句、盆踊り、木槌歌等の種類があります。

これらの民謡が日本全国津々浦々で歌われていますが、いつ頃から歌われる様になったのでしょうか。

現在のように歌われ始めたのは明治20年頃からだそうですが、本来民謡は、稲作農耕と深く関わり、稲作農耕が、形づくられた平安時代ではないかと言われてい

ます。地域によって差はあると思いますが、北は北海道、南は九州沖縄に至るまで、それぞれ感情豊かに歌い継がれてきています。

また、海外外国民謡も我々が親しく歌っている歌が多くあります。例えば、ロシア

民謡では、トロイカ、カチューシャ、赤いサラファン、フランス民謡では、アビニヨンの橋で、きらきら星、星影さやかに、イタリア民謡では、サンタルチア、帰れソレントへ、オーソレミオ、イギリス民謡では、ロンドンデリーの歌、ロンドン橋落ちた、蛍の光（別れの歌）、ドイツ民謡では、菩提樹、野ばら、ローレライ、カッコウ等々、小学校、中学校で歌っていたのが、懐かしく思い出されます。

これからも大いに歌って心豊かな日々を送りたいものです。

【活動内容と今後の抱負】

愛川民謡協会は、昭和53年に発足しています。

初代会長は、町議会議員を務められてい

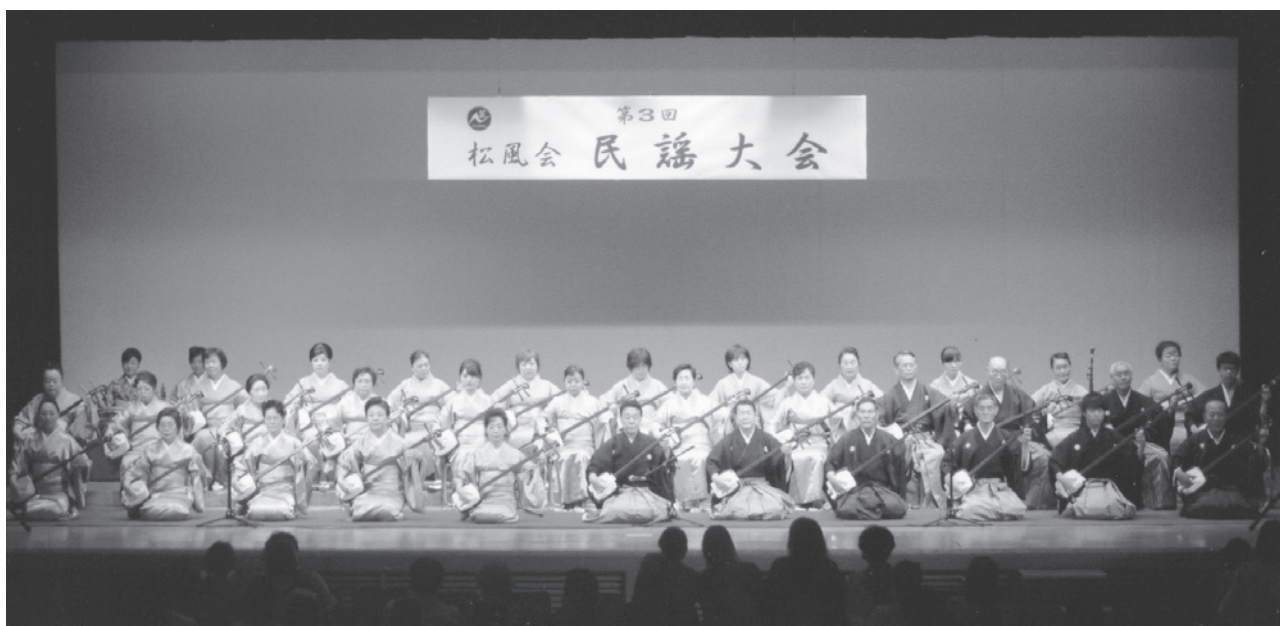


た甘利英雄氏という方だったそうで以後47年に亘り継続されてまいりました。

文化協会創立50周年を迎え、活動を益々活発化させていきたいと考えておりますが、残念ながら会派が次々と消滅し、現在では「松風会愛川」一会派のみとなっております。

【歴代会長】

甘利 英雄	昭和53年～昭和58年 (3期)
諏訪部 寸英子	昭和59年～昭和63年 (3期)
伊従 清	平成 5年～平成13年 (6期)
和田 芳子	平成13年～平成14年 (半期)
志村 清	平成15年～平成19年 (2期半)
大矢 カヨ子	平成20年～平成22年 (1期半)
長谷川 隆	平成23年～平成26年 (2期)
原 啓祐	平成27年～現在



愛川華道協会

【結成と経過】

昭和53年、7名の先生方により同好会として発足し、県央愛川農協にて華展を行いました。その後結成の目的を

- ・華道を通して人格を磨く事
- ・華道を愛し研究する事
- ・地域文化向上に寄与する事

として、昭和57年6月に16流派、会員180名にて、愛川華道協会として発足いたしました。

- 昭和58年 町文化会館 第1回華道展
75名出瓶
武相華道連盟加盟 近隣10協会
- 昭和60年 神奈川県華道連盟加盟 22協会
- 平成4年 愛川華道協会展 10周年記念華展
町文化会館にて110名出瓶
- 平成14年 愛川町華道協会展、20周年記念華展
町文化会館にて103名出瓶
- 平成17年 町文化協会 30周年出瓶
- 平成21年～31年
伝統文化こども教室開催
年9回 中津公民館にて
- 平成24年 愛川華道協会展 30周年記念華展
中津公民館にて70名出瓶
- 令和6年 40周年記念華展 中津公民館にて
40名出瓶

【活動内容（毎年）】

- ・愛川華道協会展 中津公民館
- ・武相連盟華道 町田パリオフィールド
- ・神奈川県連盟華道展 各県下各市
- ・ふるさとまつり
- ・愛川町役場ロビー展示 理事、正会員にて
- ・愛川町二十歳のつどい祝花 町より依頼
- ・県下都市華道展挨拶 22協会へ

【今後の抱負】

当協会は休むことなく、毎年華道展を開催しています。

会員相互の親睦と愛川町の自然の素材を生かし、各流派、古流松藤会、春月古流香月会、八代古流、小原流、草月流、池坊、草華流と垣根を越えて協力し、地域文化向上発展に取り組んでおります。

高齢化に伴い、会員数は減少し、70名で活動しています。

次世代に、生け花の素晴らしさを伝えていくかを模索し、今後も華道を絶やすことなく継承することを責務と思い努力してまいります。

【歴代会長】

田辺 智抱 昭和57年～昭和59年
太田 草照 昭和60年～平成 7年

遠藤 理敏 平成 8年～平成17年
原 理多寿 平成18年～平成25年
荒井 秀水 平成26年4月～令和4年 3月
澤樹 秀江 令和4年 4月～現在



40周年記念華展の風景



慰労会にて

愛川町将棋愛好会

開かれた場所

発足は1981年(昭和56年)。5名からのスタートでした。現在の会員は約40名です。

44年の間、多くの方々にご支援ご厚情を賜りました。深く感謝申し上げます。

将棋は人生百年の友

主な活動は、文化会館での月3期の棋戦会です。他に、親睦行事や大会などもあります。

また、将棋イベントや子ども普及活動を通じて、将棋文化の継承と伝達に努めています。

将棋の魅力

将棋は、ルール用具も簡単ですが、底知れない深みのあるゲームです。

人と巡り合い、人と将棋を指すことで、脳は刺激され、心は開放されます。

「新手」で道開く

地域デビュー者の減少や高齢化など、団体活動衰退時代を迎え、対策が不可欠となりました。

町に「全国大会」が来た

2022年に県下(26市町)で開催された「ねんりんピック」の種目の一つ“将棋大会”が第一号公園で実施されました。

会員有志は2日間の大会をボランティアで支えるかたわら、精鋭200名人の激闘にふれ、大きな感動と貴重な学びを得ることができました。

【歴代会長】

小島 巴 昭和56年12月～昭和57年 9月

渡辺 俊也 昭和57年 9月～昭和60年 6月

荻田 繁男 昭和60年 6月～平成27年 4月

大塚 三郎 平成27年 4月～現在





将棋日程の自動応答ダイヤル▶



愛川町歌謡協会

【結成と経過】

昭和61年 4月 結成
 令和 7年 現在に至る
 会員数 (60人) 6の加盟団体で結成

【歴代会長】

大貫 善正 昭和61年～平成19年 3月
 金子 哲夫 平成19年 4月～平成26年 3月
 田中 美代子 平成26年 4月～現在

【活動内容】

- 1) 年2回 (春、秋) にて発表会を開催
- 2) 町のふるさとまつりに参加
- 3) 町内の祭り及びイベントに招かれています
- 4) 町内の老人ホームの慰問に招かれています

【今後の抱負】

愛川町歌謡協会は今年で40年という永い歴史を諸先輩の会長さんを始め役員さんと皆さんの熱意で、積み上げてこられた歌謡協会も、ここ数年、会員数が著しく減少してきていますが、先輩皆様から良きアドバイスを頂きながら、各団体の役員や会員さんと共に協会発展の為に努力していきたいと思います。

今年もインフルエンザが流行っているので、町内の老人ホームの慰問に参加できないのが残念です。





愛川茶道協会

「結成と経過」

昭和63年、初代足立原美枝子会長の許、愛川茶道協会を15人の理事を中心として、表千家、裏千家、宗徧流、庸軒流、大日本茶道学会、黄檗弘風流の6流派で結成し、同時に愛川町文化協会に加盟をお認めいただきました。

以来、春の「つつじまつり」、秋の「ふるさとまつり」、文化会館での雛の茶会、山十郎での流派の茶会、レディースプラザの柿落としの茶会など、様々な行事を通じて愛川町にお茶の香りを…との想いで、今日まで取り組んでまいりました。

毎回、お客様に美味しいお茶を…。との想いで準備いたします。また、お客様はお茶を美味しいと、感謝してくださいます。共に相手を思いやる気持ちが何より大切です。そのような気持ちをもって、まずは一碗のお茶を楽しみながら活動しております。「一期一会」という言葉があります。いまのひととき、一会。日常生活においてもその瞬間は二度と巡りあえないという教えですが、日々の活動において実践しております。

「活動内容・今後の抱負」

茶道というと中学校で習った千利休のことを想像されると思います。その流れのひとつに裏千家という流派があり、15代・鵬

雲斎大宗匠は今年102歳。情熱はなお厚く、現在も「一盃からピースフルネスを」のもとに、国内外へ行脚されています。「丸い茶碗は地球です。その中にある緑のお茶は自然を象徴しています」こういうと皆さんぶつかろうとする衝動が和らぎ、半歩下がって我慢できるようになる。と言われていきます。まさに、相手を思いやる気持ちの表れのひとつではないでしょうか？

愛川町茶道協会では、ときの流れで高齢化に伴い所属流派も少なくなり、現在は愛川町の最も大きなまつりである秋の「ふるさとまつり」に、会員それぞれの社中が力を合わせ、各団体の方々とも交流し茶席を設けています。おいしいお茶とお菓子をお出しし、一碗を通じて話に花が咲き、町民の皆さんとの1年に1度の出会い・交流に喜びを感じております。最近ではまつりの茶席を楽しみに待っている方も多くなりました。

今後は例えば山十郎でお茶を振舞うなどの案も出ております。どうぞお気軽にご参加をお待ちしております。

現在、理事7名を中心に「継続は力なり」を信じ、茶の心「和敬清寂」の精神を大切に「ひかり・みどり・ゆとり・共生のまち愛川」において日々精進して参りたいと思っております。

（補足 本文中の裏千家鵬雲斎大宗匠は、令和7年8月14日、102歳でご逝去される）

【歴代会長】

足立原 美枝子 昭和63年 5月～平成 9年 3月

小島 政子 平成 9年 4月～平成19年 3月

成井 一江 平成19年 4月～平成23年 3月

柴田 明子 平成23年 4月～令和 2年 3月

足立原 美智子 令和 2年 4月～現在



マジック愛川クラブ

【結成と経過】

○昭和59年1月 マジック愛川クラブ結成

昭和58年秋に、愛川町教育委員会主催で行われた「マジック講習会」の参加者を中心に、「マジック愛川クラブ」を結成する。講師は、県央マジック連盟顧問の落合重幸氏を招き、現在も指導を仰いでいる。その後、会員の技術が向上し、ボランティア活動を通して、地域の方々にマジックを楽しんでもらう機会も増えた。また、海老名マジッククラブとは兄弟クラブとしての交流があり、合同の講習会を開催したり、ボランティア活動をお互い手助けしている。

○平成元年2月 愛川町ボランティア連絡協議会加盟

愛川町ボランティア連絡協議会の設立に参加し、加盟団体として活動の一端を担っている。会員が、役員としてもその任を負い、愛川町の福祉団体としても活動の場もっている。「ふれあい広場」「ボランティアの集い」等は、会員も毎年楽しみにしている行事である。



地域ボランティア

○平成2年3月 県央マジック連盟設立

県央マジック連盟（理事長：本会井上会長）の設立に参加し、秦野、伊勢原、厚木、海老名、座間等のクラブと共に活動していた。厚木市文化会館で行っているマジックフェスティバルは、平成30年12月1日の開催で通算17回になり、連続出演していた。新型コロナ蔓延の影響、会員の高齢化等により、県央マジック連盟は令和7年3月で解散した。

○平成3年6月 愛川町文化協会に加盟

町の文化団体として活動の場も広がり、ふるさとまつりで行われる「文化芸能発表会」には、毎年出演し会員の励みにもなっている。最近は、「マジック劇」でマジックを披露して、皆さんの好評を得ている。

○平成8年2月 マジックフェスティバルを主催（会場・愛川町文化会館）

平成8年2月18日

第1回マジックフェスティバル開催

平成11年2月14日

第2回マジックフェスティバル
（創立15周年記念）

平成14年2月24日

第3回マジックフェスティバル
平成25年10月19日

第4回マジックフェスティバル

(創立30周年記念)

平成28年11月20日

第5回マジックフェスティバル

諸般の都合で、開催が中断していたこともあったが、小さなマジッククラブが大きなステージでマジックフェスティバルを開催するには、多くの方々の協力や他クラブの協力があること。ご協力いただいた方々には心から感謝しています。また、来場者の皆さんに大変好評をいただき、感激したことが今でも心に強く残っています。

【活動内容】

○例会

毎月第1、3土曜日に、中津公民館で例会を行っている。身近な新聞紙やハンカチ、シルクやトランプ等を使ったマジックから、専用の道具を使ったものまで数多くのマジックを手がけている。また、「南京玉すだれ」の練習を全員で行っている。



文化芸能発表会 令和6年10月

○ボランティア活動

子ども会、自治会、小学校や幼稚園、福祉団体等の行事、最近ではミニデー等で、マジックを披露して喜ばれている。シルクや花などを出現させるプロダクションマジック、新聞紙や紙コップ等身近な物を使ったサロンマジック、また、南京玉すだれや腹話術を得意とする会員もいて、人気を博している。1年で、20回～25回の出演依頼がある。

【今後の抱負】

本クラブの会員も高齢化が進んでいるが、元気で末永く皆さんに喜んでいただけるよう研鑽していきたい。また、ボランティアのすばらしさをPRするとともに会員が増えるよう広報活動をしていきたい。

【歴代会長】

阿部 久蔵 昭和59年 1月～昭和62年 3月

井上 桂 昭和62年 4月～現在に至る



神奈川ふだん記

「書いて語り、記録は文化の花」

【結成と経過】

本誌は、東京八王子で発祥の文章記録運動に賛同した足立原美枝子が、この愛川町に昭和52（1977）年に創設した。のちに同家の嫁の足立原美智子が引き継ぎ現在に至る。創刊の誌名は「八菅のふだんぎ」といい、平成12年4月、50号から「神奈川ふだん記」となり、平成21年5月、68号から機関誌名を「やまゆり」とした。

気どらず、文章を気軽に書くこと、旅行記、生活記、地域史、自分の歴史等それぞれを記録していく事が大切な目的となった。今はパソコンの時代となり、文字離れ等と言われているが、なるべく紙に書くことを貫き活動をしている。読むこと書くことは脳の活性化にも繋がるという。令和7年、神奈川ふだん記の活動は約50年間にわたり、この3月には「やまゆり」97号の発行となった。

【活動内容・現在の状況】

年2回（春秋）機関誌「やまゆり」発行。昔の愛川町の様子、身近な事、父や母、家族のこと、何でも書き投稿できます。「やまゆり」は記録として国立国会図書館をはじめとして東京都、神奈川県、近隣の図書館に寄贈。また日本自分史センター（春日井市）に献本をしています。創設時より現在

に至るまで、会費はありません。各自、投稿文を出すときの掲載料が印刷代となり、発行しています。

神奈川ふだん記では多くの会員が個人誌も発行している。平成16（2004）年には「愛川町の昔と今」1号（222頁）、同20（2008）年にはその2号（200頁）を発行。どちらも地域史を書いて高く評された。

現在の会員数は110名。書けないけれど読むことは大好きという購読会員が、100名程います。若者は携帯電話が主となり、何よりも便利さが優先されているなか、機関誌「やまゆり」は、「活字は力、記録は力」と活動しています。愛川町は山も川も美しく、自然が豊かなこと、人々も心優しいこと。自分にしか書けない文をぜひ！さあ！今が書くときです。あなたの思いを書いて下さい。お気軽にどうぞ。

【歴代会長】

足立原 美枝子 昭和52年～平成10年

足立原 美智子 平成10年～現在



よさこいダンスチームFunny

【結成と経過】

平成12年、「愛川キッズビクス」にてダンス講師を務める田中・萩原の2名が、ダンス発表の場を広げるべく、キッズメンバーより有志を募り、「よさこいチームファニーガール」を結成。町田・夢舞生ツスイ祭へ十数名にて初参加。

平成13年、踊り子の親族等の加入で踊り子メンバー増員。「ファニーガール」から改名し、「よさこいダンスチーム Funny」誕生。

よさこい祭りの全国的な広がりとともに、会員数が増加。平成14年には最大の70名前後のチームとなる。チームとしての統率や円滑な運営ができるよう、組織の整備を進めた。年平均17カ所のイベントに参加。コンクールでは数々の賞を頂いた。

平成21年には、愛川町観光協会より、初代愛川町観光親善大使に任命され、県内外にて愛川町のPRに努めている。

平成26年、愛川町文化協会監事・沼田穰氏の推薦により、愛川町文化協会へ加入。地元・愛川町周辺のイベントに、さらに積極的に参加するようになる。

結成から10年が経過し、踊り子の減少が課題となったが、工夫を重ねて活動を続けてきた。その矢先のコロナ禍で令和2年は全イベントが中止。新曲の準備をしながら再開を待った。

緊急事態宣言が明け、規制の緩和とともに活動を開始。現在も、年平均18カ所のイベントで舞い踊り続けている。

【活動内容】

よさこい踊りを通じて、地域の活性化と健康で豊かな文化、人の交流に寄与することを目指して活動している。毎週土曜日、愛川町内の公共施設をお借りし、練習を重ねている。コロナ禍前までは毎年新曲でチームのよさこいダンス作品を仕上げてき



たが、令和3年度からは2年に1作品のペースで披露。プロに依頼した曲に萩原代表によるダンスの振り付けと、会員のデザインを全員で手作りをした衣装で鳴子を鳴らし舞う踊り子たち。大旗を自在に操り、空間を演出する旗士。曲に命を吹き込み踊り子を鼓舞するがなり。その三者で Funny World を創り上げる。

チーム作品だけではなく、あいちゃん音頭（萩原振り付け）や各地祭りの総踊り曲も覚え、地元を始め、県内外のイベントを楽しみ、盛り上げている。

【今後の抱負】

よさこいダンス、よさこい祭りを通し、他チームや地域の皆様との交流を図り、水と緑の雄大な自然に包まれた私達の町、愛川を、今後も広くアピールしていきたい。私達が笑顔で元気に舞うと、観て下さる観客の皆様も笑顔になって・・・そんな交流の輪が広がることが祭りの最大の魅力だ。祭りを通じて、出会いを楽しみ、世の平和や人の幸せを願って行く。これからも「笑顔と元気」をモットーに、鳴子の響きに思い載せていく。

【歴代代表】

田中 陽子 平成12年～平成17年

萩原 智恵子 平成18年～現在



マイカイアロハ

マイカイアロハ

現在の活動状況

私達マイカイアロハは、愛川町を中心に活動しているフラ教室です。

Maikai(マイカイ) = 美しい、元気な Aloha (アロハ) = 愛という意味で、いつでも素敵な愛に溢れ、皆が心から笑顔になれる、そんな明るい教室を目指しています。

現在メンバーは60代～70代を中心にボランティアやお祭り等に参加させていただいています。

私達のフラダンスが1人でも多くの方を笑顔にできたらうれしいです。

今後の抱負

今後は、地域の老人ホームへのボランティアや公民館まつりなどへの参加の他に、町主催のイベントで踊らせていただき、見てくださった方が、フラダンスの魅力に興味を持ってメンバーの増員ができたらうれしいなと思っています。

健康で楽しく踊るフラダンスの魅力を多くの人にもっと知っていただけたらうれしいです。

一緒にフラダンスを楽しみましょう！



愛川清流太鼓

現在の活動状況

主に町内を中心に近隣地域でのイベントやお祭りなどに出演させていただき、演奏活動をしています。

現在会員は子供と大人合わせて30名ほどおり、毎週第2・3・4日曜日の午後5時～9時まで、農村環境改善センターで練習しています。

また、2017年より文化庁伝統文化親子教室事業に取り組んでおり、随時参加者を募集しています。(参加費無料)

お子様から大人の方まで、みんなで楽しめる和太鼓。興味のある方はぜひ一度、体験にいらしてください。



今後の抱負

日本の伝統文化継承の観点から、和太鼓体験会・ワークショップの開催や地域イベントへの積極的な参加、お囃子練習の充実とチンドン屋にも挑戦してみたいと考えております。

愛川清流太鼓は、子どもも大人も『みんなで楽しく!』をモットーに、地域と会の発展に努めて参りたいと思います。



愛川町文化協会規約

(名 称)

第1条 この会は、愛川町文化協会と称する。

(事務所)

第2条 この会は、事務所を愛川町教育委員会内におく。

(組 織)

第3条 この会は、町内に所在する文化団体によって組織する。

(目 的)

第4条 この会は、町内の文化団体相互の連絡協調をはかり、町民の健全なる文化教養の向上とその振興、発展を期し、もって町民文化に寄与することを目的とする。

(事 業)

第5条 この会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 町民文化の向上に関する方策の調査研究
- (2) 加盟団体の強化、相互の親睦
- (3) 各種文化事業、講習会等の開催
- (4) 県文化団体および他市町村の文化団体との交流
- (5) 文化に関する宣伝、普及ならびに奨励
- (6) その他この会の目的達成に必要な事業

(役 員)

第6条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 会 計 2名
- (4) 書 記 2名
- (5) 理 事 若干名
- (6) 監 事 2名

2 前項に定めるもののほか、顧問若干名を置くことができる。

(役員を選出)

第7条 理事は、各加盟団体から1名ずつ選出する。

2 会長、副会長、会計、書記および監事は、理事または加盟団体構成員の中から役員会の協議によって選出する。

ただし、会計、書記各1名は、教育委員会職員をもってあてる。

3 会長、副会長、会計、書記および監事が理事の中から選出された場合、当該加盟団体は、これに代わる理事を選出するものとする。

ただし、当該加盟団体から選出できないとの申し出があり、理事会での承認を得た場合、この限りではない。

4 会長は、役員会の同意を得て、顧問若干名を委嘱することができる。

(役員の仕事)

第8条 会長は、この会を代表して会務を総理し、役員会の議長となる。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

3 会計は、この会の経理を掌理する。

4 書記は、この会の庶務を掌理する。

5 監事は、この会の会計を監査する。

6 理事は、この会を掌理する。

7 顧問は、重要事項につき会長の諮問に応ずる。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とする。ただし再任を妨げない。

2 補欠役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第10条 会議は、総会および役員会とし、すべて会長がこれを召集する。

2 総会は、この会の決議機関であり、各加盟団体2名ずつの代議員をもって構成する。役員会は、この会の執行機関である。

3 総会は、年1回開かなければならない。ただし、必要あるときは臨時に開くことができる。

4 役員会は、会長、副会長、会計、書記、理事および監事をもって構成する。

(経 費)

第11条 この会の経費は、加盟団体の分担金、その他の収入をもってこれを充てる。

2 分担金の額は、各団体 4,000円とする。ただし、必要に応じて臨時に徴収することができる。

(会計年度)

第12条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(予算および決算)

第13条 この会の予算は毎会計年度開始前に役員会で行い、決算はその会計年度終了後すみやかに監事の監査を経て、それぞれ総会の承認を得るものとする。

(加 盟)

第14条 この会に加盟し得る団体は、次のような団体であってはならない。

- (1) 政治的宗教的な団体
- (2) 広域的な会員組織を欠く団体
- (3) 会員数が10名に満たない団体
- (4) 活動実績（1年以上）をもたない団体

第15条 この会に加盟しようとする団体は、その代表者により次の書類を提出し、役員会の議をもって承認するものとする。ただし、総会に報告しなければならない。

- (1) 加盟申込書
- (2) 事務所所在地
- (3) 規 約
- (4) 加盟団体組織一覧表
- (5) 役員名簿
- (6) 当該年度事業計画
- (7) 当該年度予算書
- (8) 前年度事業報告書
- (9) 前年度収支決算書

第16条 この会に加盟しようとする団体が第14条、第15条各項の条件に満たない場合でも、その団体が本町にとって、社会的、文化的に貢献度が高いものであるときは、特例として役員会の議を持って加盟を認めることができる。ただし、総会に報告しなければならない。

(脱 退)

第17条 この会の脱退は、次のとおりとする。

- (1) 加盟団体が脱退しようとするときは、脱退届を会長あて提出し、役員会の承認を得なければならない。
- (2) 加盟団体として不適当と認めるときは、役員会の承認を得て脱退させることができる。ただし、総会で報告しなければならない。

(加盟および脱退の時期)

第18条 加盟および脱退は、年度のきりかえの時をもってする。

(規約改正)

第19条 本会の規約改正については、役員会で審議し、総会の承認をもって成立する。

(表彰)

第20条 この会は、別に定める表彰規程により協会の目的に対し功績のあった者及び団体に対して表彰する。

附 則

- 1 この規約は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、昭和57年6月12日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 3 この規約は、平成2年6月21日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 4 この規約は、平成8年6月7日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 5 この規約は、平成12年6月21日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 6 この規約は、平成19年5月23日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 7 この規約は、平成20年5月28日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 8 この規約は、平成30年5月23日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 9 この規約は、令和6年5月22日、その一部を改正し、同日から施行する。

愛川町文化協会役員名簿

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

役 職	所 属	氏 名
会 長	愛 川 町 民 謡 協 会	原 啓 祐
副会長	愛 川 茶 道 協 会	今 井 ふく江
会 計	愛 川 町 歌 謡 協 会	田 中 美代子
書 記	愛 川 町 吟 詠 連 盟	勝 又 莊 蔵
監 事	み な か み 短 歌 会	富 田 茂 子
理 事	み な か み 短 歌 会	(富 田 茂 子)
〃	愛 川 町 吟 詠 連 盟	(勝 又 莊 蔵)
〃	愛 川 町 民 謡 協 会	栗 山 幸 子
〃	愛 川 華 道 協 会	澤 樹 若 江
〃	愛 川 町 将 棋 愛 好 会	齊 藤 瀧 雄
〃	愛 川 町 歌 謡 協 会	(田 中 美代子)
〃	愛 川 茶 道 協 会	足立原 美智子
〃	マジック愛川クラブ	柳 川 正
〃	神 奈 川 ふ だ ん 記	渡 辺 淑 江
〃	よさこいダンスチームF u n n y	萩 原 智恵子
〃	マ イ カ イ ア ロ ハ	江 尻 宏 子
〃	愛 川 清 流 太 鼓	滝 澤 吉 男
顧 問	マジック愛川クラブ	成 瀬 和 治

事務局	小 宮 侑 史	教育委員会スポーツ・文化振興課
	鈴 木 健 太	〃

愛川町文化協会 創立50周年記念誌

50年のあゆみ

2025年10月1日 発行

発行 愛川町文化協会

印刷 株式會社日相印刷

